

平成2年(1990年) 5月22日(火曜日)

第5524号(日刊)



学者、技術関係者など500人が参加して第8回日韓トンネル研究会総会が開かれた=21日、都内のホテルで



発行所
世界日報社
 東京都渋谷区宇田川町12番9号
 郵便番号 150
 電話 (03) 476-3411
 郵便振替口座 東京7-40860番
 ©世界日報社 1990

近年中に本格工事も

「日韓トンネル」で報告会

国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会の平成元年度研究調査報告会および第8回通常総会が二十一日、都内のホテルで開かれた。同総会で日韓トンネル研究会の佐々保雄会長(北海道大学名誉教授)は「当研究会発足当時は日韓トンネルを建設すると言っても地形、地質や地盤などの資料、情報不足から施工方法など分からない面が多すぎた。しかし、七年間に

わたる幅広い調査・研究で相当詳しいところまで知ることができるようになった。近年中に試験斜坑工事から本格工事に移れるのも夢ではないとあいさつ。この後、同総会は二十四日の盧泰愚韓国大統領訪日に合わせて日本政府に「日韓海底トンネル早期実現に向けてのお願い書」を提出することを採択した。

日韓トンネル研究会は一九八一年十一月文鮮明師によって提

唱された「国際ハイウェイ構想」の実現に向けて一九八三年五月に発足。日韓トンネルプロジェクトの調査・研究に参加した学者、技術者はすでに一千人を超え、その研究成果は国内だけでなく、海外の国際会議でも発表されている。今総会には技術関係者など五百人が参加した

が、韓国海外技術公社の李建吉常任理事、韓国技術用益協会の成百詮会長など韓国側からも三人参加した。

同研究会はまず、昨年度の調査・研究成果を報告。経済、地質、施工、環境など四部会からの発表がなされた。その後の総会で特別報告に立った谷藤正三元北海道開発庁事務次官は先にモスクワで開かれた「世界言論人会議の成果」と北京で行った「中国予備調査の報告会議」の内容を語った。それによると、「ソ連も中国も国際ハイウェイ建設を強く要請しており、その

ためにも一日も早い日韓トンネルの実現が待ち望まれる」と強調した。

最後に同総会は二十四日の盧泰愚韓国大統領訪日に合わせて日本政府に「日韓トンネル早期実現のための『お願い書』」を提出することを採択し、当プロジェクトを官民共同事業として推進できるように要望した。ちなみに、盧泰愚韓国大統領は訪日した際、日韓経済交流を活性化するための具体的な提案として、両国間に海底トンネルの建設を発表するという報道(八日付韓国紙)がある。